

2日目（6/17 月曜日）

1. 散歩

6時半起床。朝一人でホテルの近くを少し散歩。ローソンあり。ある店には人が並び、朝飯を食べていた。ホテル前で写真。車整理の人に頼んで撮ってもらった。

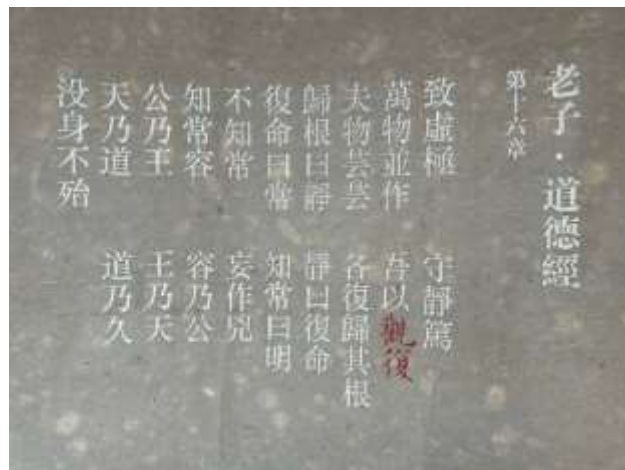


2. 李クンと孟クンが車でお迎え（9：30）—上海観復博物館を見学

1) 李淵博クンの案内で、2017年3月に上海一の高層ビル「上海中心大廈」（632m）の37階にオープンした上海観復博物館を見学。中国で最も高い、地上173mの位置にある同博物館は、別名「坂の上の雲」ならぬ「雲の上の博物館」と呼ばれているそうだ。

2) 同館は陶磁器、仏像など古代のコレクターで、鑑定士として中国のテレビ等にも出ている北京出身の資産家・馬未都さんの私設博物館だと聞いてビックリ！馬未都さんは北京や厦門にも同じような私設博物館を持っているそうだ。上海にある、そんな私設の博物館に、約1000年前から清代までのすばらしい陶磁器、仏像、純金製品、民族衣装などが展示されていることに、ビックリ！中国でなぜこんなことが可能なの？それは結局わからないままだが・・・。

3) この博物館の入り口には、老子の『道德経』第16章が大きく掛けられている。これを読める人は少ないだろうが、何はともあれ、その意味をしっかりと勉強する必要がある。館内を見学していると、前評判通りその展示品の豪華さと素晴らしさにビックリ！これぞまさに、金銀財宝の山々だ！この博物館の中にはそんな品々がどっさり！



参考：上海観復博物館

<https://www.shanghainavi.com/miru/488/>

北京市観復博物館

<https://madoken.jp/series/462/>

馬未都

<http://www.peoplechina.com.cn/maindoc/html/renwu/yanjing/200207.htm>

3. 世界一高いビルである上海中心を見学

1) 若き日の織田信長は、まず「金華山城」（岐阜城）（稲葉山城）を建て、続いて「安土城」を建てて「天下布武」を天下に知らしめた。他方、旧約聖書の「バベルの塔」の物語は有名だが、近代化を果たした世界各国（の人々）が高いビル（の建設）を目指す姿を見ていると、高いところを目指す人間の業（さが）は、昔も今も同じようだ。かつて日本一高かった東京タワーが、今や浅草スカイツリーに取って代わられたように、「世界一高いビル」が次々と変遷（競争）していく姿は興味深い。私はかつての上海旅行で、当時の世界一高いビルだった「上海環球金融中心」を見学したが、今回は高さ632mの「中国で最も高いビル」である「上海中心」（上海タワー、上海中心大廈）を見学。2016年に完成した同タワーは、螺旋状にねじり上がっていく形が特徴だ。

2) 2017年4月にグランドオープンした展望台までの直通エレベーターは三菱電機製で、地下2階から地上119階まで53秒で到達するからすごい。

「你好天空」の文字で迎えられた展望台から見渡す（見下ろす）眺めは、まさに絶品！織田信長や豊臣秀吉が、高い天守閣に憧れた気持ちがよく理解できた。

3) もっとも、高いところに登れば、レストランでの食事はもとより、水やコーヒーの値段も正比例して高くなるのはやむを得ない。それを自覚しつつ、一番安いコーヒーを飲んでひと休みした後、次の見学地へ向かうことに。

参考：上海中心

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8A%E6%B5%B7%E4%B8%AD%E5%BF%83>



(2) 展望台へ

展望台でコーヒー購入。40 元



4. 第26回上海国際映画祭会場へ

1) 今回の12年ぶりの上海旅行の動機は、小川夏果がプロデュースし、伊地知拓郎が監督した長編デビュー作『郷 僕らの道しるべ』（英題：VICISSITUDE／中国語題：郷野）が第26回上海国際映画祭アジア新人部門にノミネートされ、小川さんから「一緒に行きませんか？」と誘われたことだから、最大の目的は同映画祭で同作品を鑑賞することだ。

2) 私が彼女とはじめて知り合ったのは、2022年12月末。公益社団法人 日本中国友好協会が発行している機関紙『日本と中国』で互いに連載していたことによるもの。初対面で彼女の才能を直感した私はすぐに映画制作への援助を決めたが、その直後から彼女は北京電影学院時代の友人である伊地知監督が故郷の鹿児島で制作を始めたデビュー作にのめり込み、プロデューサーとしてそれを完成させたところ、同作が上記の快挙に至ったわけだ。

3) 上映日は6月17日（月）、会場は上海電影城だ。上映後の舞台挨拶に立った2人は、会場内からの熱い拍手に包まれた。残念ながら監督賞、作品賞の受賞には至らなかったが、今後予定される日本での凱旋上映では大きな反響を呼ぶはずだ。日本の若き才能は、プロ野球の大谷翔平、将棋の藤井聡太が双璧だが、若干24歳の伊地知監督もその仲間入り！



4) 上映会の前に



チケットを持って



5) 映画鑑賞（1 時間半）は一番前の真ん中の席でCの隣に



6) 上映終了後の2人のインタビューを写真撮影



7) 私の取材した記事が公益社団法人 日本中国友好協会の機関誌『日本と中国』2291号(8/1)に掲載されたので、それを転載しておく。



観客と記念撮影する伊地知監督(手前左)と小川プロデューサー(同右)

上海国際映画祭に初参加!



弁護士・映画評論家 坂和 章平



記者会見

(1) 私と臨時時代の友人だった伊地知監督とタッグを組み、龍門島で新作映画『龍 僕らの通しるべ』を制作中である。2022年12月31日に難波で初公開した私は、彼女の才能を直感した。映画関係事業への援助を約束したところ、すぐに北京電影学院の「(2) 早速、今年4月、上海国際映画祭に初参加した。上海国際映画祭のアジア新入部門でWノミネートの報告を受けてさらに驚愕した。コロナ禍を終えた今、何が何でも映画祭での上映を体験しなくちゃ! 直ちにチケットを買い、ホテルを予約し、ビザの手配を済ませた。私は、通訳の女性を伴って、4泊5日の上海旅行にいき、出発! (3) 12年ぶりの上海旅行の思い出は多かつたが、最大の目的は中国語タイトル『龍 僕らの通しるべ』の上映と、伊地知監督と小川プロデューサーの記者会見を自分の目で確認することだ。中学生の時から松山の映画館に通い、大阪でも多くの映画館を体験したが、私と同じく上海の映画館での映画鑑賞は初体験。DVD鑑賞とは異なる本作の素晴らしさを堪能することができた。

(4) 上映後や記者会見後の入場への拍手は温かく、大きいものだった。作品賞・監督賞の受賞には至らなかったものの、Wノミネートの功績は大きい。25歳の伊地知監督の才能と、それを支える小川プロデューサーの実務能力が自ずから、今後の作品でさらにその大躍を成就させることだろう。したがって、『龍 僕らの通しるべ』は、そんな将来への「期待感」いっぱいの上映会に拍手! そして、こんな素晴らしい機会を与えてくれた小川プロデューサーに感謝! 2024年7月4日記

5. マッサージ店へ (一人210 元)

- 1) サウナとマッサージが大好きだった若い頃の私は、時々行く「ニュージャパン」のサウナとマッサージが楽しみだった。しかし、1989 年(平成元年)にはじめて高額の入会金を払って南海サウスタワーホテルのフィットネス会員になった後は、高級路線(?)に方向転換。しかし、弁護士業務の多忙の中でのサウナ通いの夢は叶わず、長い間月会費を浪費していた。ところが、2015 年の大腸ガン、2016 年のガンの手術を経た後は、「仕事よりも好きなことを!」への路線修正の結果、帝国ホテルのフィットネスへのサウナ通いが日常となり、25m プールで 40 分、1km を標準とする水泳の回数も増えた。さらに、事務所のすぐ近くにある「のぞみマッサージ店」へ、日曜日毎に通うようになってから既に 4~5 年。当初は「痛い痛い!」と悲鳴を上げていた 60 分間の「足つぼマッサージ」も今や舒服!(気持ち良い!)
- 2) 他方、約 20 年前の雲南省旅行では安くて腕のいい店に出会ったが、数年前の北京や上海の高級店は高いだけで、優しく撫でるような施術にも全く満足できなかった。そのため、今回の上海旅行でも全然期待していなかったが、李淵博クンに相談すると、「僕が鍼治療をしてもらったいい店がある」と勧められ、タイミングよく予約が取れたため、「康経堂(KANG JING TANG)」へ行くことに。
- 3) 半信半疑の中でベッドに横たわると、施術してくれた女性の腕前は最高! はじめての客であるにもかかわらず、すぐに私の身体の硬さと強度なコリをその指で感じ取ってく

れたようで、適切な施術を施してくれた。料金も 4500 円程度で十分納得できるものだったから、店にも李クンにも大感謝了！

- 4) ちなみに、旅行 4 日目の 6 月 19 日も夕方に少し時間が空いたため、再度予約を取って同店へ行くことに。施術の担当者は違っていたが、2 度目も十分満足。



6. 夕食会

- 1) 李クンについては、2012 年 8 月 16 日～20 日の上海・合肥・南京・上海旅行の思い出でいっぱい（『がんばったで！40 年』370 頁）。したがって、安徽省の西肥出身の彼は上海には縁がないものと思っていた。ところが、近日、彼は帅帅さんと結婚したとの報告を聞いたが、上海の電通に勤めている帅帅さんは上海に住んでいたから、李クンは事実上彼女と共に上海に住み、日本と上海を行き来していたらしい。そのため、上海旅行

2 日目は、彼と帥帥さんが私を歓迎する夕食会を開催してくれた。かなり高級なお店だが、ここは彼のマンションのすぐ近くにあるお馴染みの店らしい。

- 2) 夕食会への出席者は李クン、帥帥さん、劉さん、薛逢源さん、陈华峰さん、赵晶さん、伊藤日実子、私の 8 名。おいしい食事の中でいろいろな話題に花が咲いたが、ほぼ食事を終えた頃に突然話が盛り上がったのは、甘肅省から北京大学にトップで入学し、長い間金融の仕事に就いている薛逢源さんとの会話だ。彼は日本語を話せないが、鑑真号の社長で、日本語もペラペラの陈华峰さんが正確な通訳をしてくれたおかげで、「これから投資するなら日本の保険会社だ。」と語る薛逢源さんの持論に対して、私がかかなり突っ込んだ意見（反論）を述べることになった。彼はしきりに「日本の未来は明るいと思っている（多くの外国人が日本市場に期待している）。これから投資するなら日本の保険会社だ。失われた 30 年と言われてきたがバフェットが商社に初めて投資した 2020 年から日本の経済はまた動き始めたと考えている。」と語っていたが、さて・・・。
- 3) この議論は食事をほぼ終えた後に突然盛り上がったが、同行した伊藤日実子の通訳ではこんな議論の通訳はとても無理。鑑真号の社長として日本経済の動向を 20 年～30 年観察し続けてきた陈华峰さんの知識と語学力のおかげで、約 30 分間も続く充実した議論ができたことに感謝！李クンの幅広く、かつ優秀な順脈にも敬服！



【会議メモ】

- ・ 李さんのビジネスについて（高野山ツアーというニッチな産業の可能性について。いかなるニッチな産業も人口の多い中国では大衆=メジャーになりうる）
- ・ ベトナムにおけるビジネスについて
- ・ 帥帥さんの大阪に行った後のプラン（化粧品などの日本ブランドの中国進出の SNS ブランディング）
- ・ 薛さん：日本の未来は明るいと思っている（多くの外国人が日本市場に期待している）。これから投資するなら日本の保険会社。失われた 30 年と言われてきたがバフェットが商社に初めて投資した 2020 年から日本の経済はまた動き始めたと考えている。バフェットの情報ネットワークは業界に対する基本的な知識以外に業界のプロフェッショナルとの人脈から仕入れているのでかなり強い。

7. 孟クンの車でホテルへ

シャワー、就寝